

飛騨圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1	高山赤十字病院	高山市	<p>【現状、特徴】 飛騨圏域唯一の三次医療機関であることから、高度急性期及び急性期機能は強化・維持していくとともに、回復期及び慢性期機能は他病院と役割分担を図りながら、地域医療に貢献する。</p> <p>【課題】 急性期治療後の受皿となる後方支援施設（介護・福祉含）が乏しく、高齢・独居で在宅退院も困難な方が多い地域である。このため病床機能について、院内完結型でなく地域医療機関との役割分担が必要だと考えているが、相手ある話のため具体的な検討や議論が難しい。また、後方施設だけではなく、開業医の高齢化が進行するなか、前方支援施設も乏しい。</p> <p>当院付帯施設に介護老人保健施設を有しており、その下支えをしているが、経営状況も厳しい状況が続いている。建物の老朽化が著しく、新病院建設は喫緊の課題である。今年度、地域有識者との協議会を設置し、新病院建設に向け具体的な検討を行う予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期及び急性期機能を中心とした役割 救急、周産期、小児、がん医療などの政策医療に係る機能 地域医療及びへき地医療支援に係る機能 	○	実施済み		○			<ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想の意向に沿い、令和3年4月に許可病床を78床削減した。 飛騨圏域で高度急性期及び急性期機能を維持していくためには、地域における救急や手術症例の集約が必要になり、自ずと回復期や慢性期機能との役割分担が必要になってくるが、病院経営及び医師確保等の側面から具体的な議論が難しい。
2	岐阜県厚生農業協同組合連合会飛騨医療センター久美愛厚生病院	高山市	<p>【現状、特徴】 ○救急告示病院、第二種感染症指定医療機関、へき地医療拠点病院、及び地域災害拠点病院の各指定を受け、飛騨医療圏域の基幹病院として医療の提供をしています。特に、循環器内科分野、消化器外科分野においては、充実した医療を提供しています。また、ヘリポートを敷地内に常設しているため、高度治療を行う病院との連携も可能です。</p> <p>○訪問看護ステーションと緩和ケアセンターを併設しており、積極的治療が終了した患者に対する体制を整備しています。</p> <p>○飛騨医療圏域で唯一のPET-CTを整備しており、がん診療においても大きな役割を担っています。</p> <p>○保健予防活動である各種検診等を広域な飛騨医療圏全域で実施しています。</p> <p>【課題】 高山厚生病院との病床再編に伴い、医療療養病床の移管について、地域のニーズや地域住民にとって必要な病床機能・規模を検討する。</p> <p>また、老人保健施設、介護施設等とは異なった、医療機関として提供できる慢性期機能の充実を図る必要がある。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症等の新興感染症の今後について注視する必要があり、地域の感染症病床と結核病床を有する医療機関として、機能維持と診療の充実は責務であると認識しています。当院の強みである健診事業の充実、急性期から回復期、慢性期を経た在宅医療までの「地域完結型」の医療を支えることで、地域住民に安心で安全な医療を提供します。</p> <p>また、地域の救急医療を担う医療機関として、近隣の医療機関との連携強化を図る必要があります。</p>	○	○	○	○			<p>地域の中核病院として、病床機能の見直しが必要であると捉えています。医療療養病床の当院への移管に向けて、慢性期機能の拡大と急性期機能の縮小を検討しています。急性期機能の縮小には、冬期の感染症や循環器系疾患の拡大、凍結・積雪による外傷疾患の増加による病床の不足が懸念されますが、回復期機能病床との連携により対応する予定です。</p> <p>また、緩和ケア病棟を有しているため、緩和ケアを必要とするがん患者についてもフレキシブルに対応し、訪問看護ステーションとの連携を図ることで、利用者のニーズに沿った医療を提供します。</p> <p>その他、産科医師の高齢化に伴い、産科の継続について検討する必要があります。</p>

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
3	岐阜県厚生農業協同組合連合会飛騨医療センター高山厚生病院	高山市	【現状、特徴】 高山市内で唯一の療養病床を有する当院は、急性期医療から慢性期医療へ移行した高齢患者のほか、当院以外での受け入れが困難な医療処置を必要とする要介護者の受け皿や、看取りの場として位置付けされている。 【課題】 医療療養病床については飛騨医療センター久美愛厚生病院へ移管。介護療養病床については、令和5年度末で廃止予定である。	医療療養病床については移管。介護療養病床の廃止に伴い閉院を含め検討している。	○	○	○	○			医療療養病床については移管。介護療養病床の廃止に伴い閉院を含め検討している。
4	社団医療法人古川病院	飛騨市		未回答							
5	国民健康保険飛騨市民病院	飛騨市	【現状、特徴】 当院は直近となる高山市の二次救急医療機関まで距離にして33km程、車で45分の位置にあり、市内の最も遠い集落からは60kmの距離となるため、当院が二次救急を担う必要性は明らかである。また、高度急性期を脱した患者の転院を受け入れ、急性期から回復期を経て在宅復帰を支援する機能とともに、慢性期の患者が安心して療養できる環境が求められる。 【課題】 著しい高齢化と急速な人口減少の中で、急性期から回復期、慢性期に至る個々の患者のニーズに応え、在宅復帰に向けたきめ細やかな支援体制を備えつつも持続可能な経営形態を見据えた施設規模や診療体制の構築が課題である。	地理的要因から救急医療と急性期病床の一定の需要に応えつつ、当院が推奨する嚥下療法である完全側臥位法の普及とともに地域包括ケアのより強固な体制を整えることで、多くの患者の希望でもある在宅復帰を支援するための回復期病床の比率を高めていく。	○	実施済み					病床機能については、回復期病床の比率を高め急性期からシフトしていく。病床数は令和3年1月1日に10床の削減を実施済み。
6	下呂市立金山病院	下呂市	【現状、特徴】 ・入院基本料 急性期一般入院料5/療養病棟入院料1 ・圏域の医療資源の問題で、急性期から慢性期までカバーしている。 ・5疾病のうち、所属医師の専門範囲(主に消化器)のがん治療、糖尿病の早期発見、予防に力を入れている。 ・5事業のうち、救急医療、へき地医療に重点をおいているが、総合医療にも対応している。 【課題】 当院の位置する下呂市金山地域は高齢化率も高く(45.7%/令和4年6月1現在)、今後も独居、高齢世帯が増える見込みであるため、現状の医療規模を維持することが重要となってくる。加えて、コロナ禍に様変わりした患者動向に対するコロナ後の対応や、慢性的な医療スタッフ不足の解消などに取り組む必要がある。	周囲30km圏内に病院がないことから、急性期病院としての機能を維持し、かつ、地域を包括的・継続的に支えるヘルスケアのハブ機能を有する病院として、地域の人々のニーズに応えていく。						○	本年度の公立病院経営強化プランの策定作業の中で、十分な議論に至っていないため。

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
					① 病床 機能	② 病床 数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
7	岐阜県立下呂温泉病院	下呂市	<p>【現状、特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中核病院、「へき地医療の拠点病院」として生活の場の医療を県立病院の立場から創設し、地域住民及び県民から信頼され、必要とされる病院づくりを目指している。 ・大規模地震災害時においても診療機能を維持・確保するために地下免震構造を導入している。 ・ヘリポートを整備し、救急受入時間の短縮やドクターヘリによる高度急性期病院への転院搬送が可能である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師確保対策を充実するとともに、県立病院としての役割及び機能を継続しつつ、地域の医療ニーズに応える必要がある。 ・人口減少、少子高齢化に伴う患者ニーズの変革に対応するため、飛騨圏域全体として地域住民、行政、医療関係者等による合意形成をしたうえで、それぞれの医療機関の役割分担等を検討していく必要がある。 	<p>・へき地中核病院として、現状の医療体制の維持・継続及び不採算・特殊部門に係る医療の提供を行うとともに、急性期医療の提供と地域包括ケア病棟、回復期病棟を有効活用して在宅復帰に向けた支援を実施する。</p>		実施済み						<p>・病床数の見直しについては、新病院建設時に255床から206床に減床を実施済みである。今後も飛騨圏域南部における基幹病院及びへき地中核病院として運営するためには必要な病床数と考える。</p>
8	ナチュラルクリニック21	高山市	<p>【現状、特徴】</p> <p>アトピー性皮膚炎のステロイドを使用しない入院治療に特化しており全国から入院してきている。地域においては肺炎、心不全、肺炎等の急性期入院を受け入れている。</p> <p>【課題】</p> <p>今後も当院の特徴であるアトピー性皮膚炎の治療に重点を置き発展させて行きたい。地域医療においては診断精度を高めたい。</p>	<p>科学的エビデンスに基づいたアトピー性皮膚炎の療養を発展させ医療の先進性に寄与したい。</p>						○	<p>アトピー性皮膚炎の療養を発展させ医療の先進性に寄与したい</p>	
9	光華眼科医院	高山市	<p>【現状、特徴】</p> <p>特にありません。</p> <p>【課題】</p> <p>特にありません。</p>	<p>白内障手術を高齢者に向け肅々としていきます。</p>						○	<p>小規模の眼科医院ですので、入院施設はありますが、主に遠方の方向けの施設の為、現状のままで良いと思います。</p>	
10	アルプスベルクリニック	高山市	<p>【現状、特徴】</p> <p>当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。</p> <p>◆診療実績 月平均分娩数=32.0件（2022年1月～6月実績）</p> <p>【課題】</p> <p>特になし</p>	<p>分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えています。</p>						○	<p>周産期医療機関であり、特段見直しを必要としていないため。</p>	
11	医療法人下呂温泉渓泉会 黒木医院	下呂市	<p>【現状、特徴】</p> <p>病床休止状態</p> <p>【課題】</p> <p>スタッフ確保困難</p>	<p>人口減少により入院病床の役割は無くなりつつある</p>						○	<p>いざという時の後方施設として維持</p>	
12	村瀬眼科クリニック	下呂市	<p>【現状、特徴】</p> <p>下呂市は眼科医療を受けれる施設は少ないです。このため当院では地域の皆様に貢献できるよう、眼科医療全般を行っております。</p> <p>【課題】</p> <p>重度の眼科疾患は紹介が必要となりますが、遠方への紹介となるのが課題です。</p>	<p>今後も地域の皆様に貢献できるように眼科医療全般を行っていきます。</p>						○	<p>下呂市は眼科医療を受けれる施設は少ないため</p>	

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
13	下呂市立小坂診療所	下呂市	<p>【現状、特徴】 下呂市北部地域(旧小坂町)の唯一の医療機関であり、老人保健施設を併設しています。小坂地域の高齢化率は46.5%(R4.6末)を超えており、市内一高い高齢化地域の、かかりつけ医という役割を果たしています。</p> <p>【課題】 医師確保が課題となっています。 自治医大卒業医師を派遣いただき診療が成り立っています。そのため、地域のかかりつけ医ではありますが、かかりつけ医が数年おきに異動する現状にあります。</p>	地域のかかりつけ医として、主体的に在宅医療に取り組む					○		療養病床14床については、R6年度に介護医療院への転換予定